

東濃農林事務所の普及活動状況

令和6年4月

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■直売所 野菜づくり塾開講

4月18日に「令和6年度野菜づくり塾」開講式と第1回講座が開催され、野菜づくりに関心のある33名が参加した。

開講式では、主催者であるJAとうとから受講者に対し、直売所出荷への期待を込めた挨拶があった。

講座では、座学として農業普及課が野菜の土づくりのポイントについて講義を行い、野菜の栽培前に必要な土壌改良の基礎知識について、参加者の理解を深めた。その後、体験農場において、JAにより土壌改良剤の散布と耕運機による耕起作業を行った。

野菜づくり塾は、11月まで計15回開催する予定で、野菜づくり全般を学ぶ講座となっている。

当管内には、農産物直売所に出荷する組織が2組織あるが、いずれも会員は高齢化しており、将来的に直売所を維持発展するためには、新たな出荷者の育成や確保が必要である。

今後も講座実施を支援し、直売所へ出荷いただく新たな農業者の確保を図っていく。



【野菜づくり塾講義の様子】



【野菜づくり塾実習の様子】

■水稲 直播栽培の現地実証ほの設置

4月15日に水稲担い手生産者において水稲種子のコーティング作業が行われ、東濃農林事務所の他、多治見市や農機メーカーなど関係機関が出席し、作業工程の確認を行った。

多治見市では、水稲べんがらモリブデン直播栽培が拡大しており、この担い手生産者でも補助事業を活用して播種機を導入し、今年度より直播栽培を始める。

当日はコーティング作業のほか、播種機の取り付け・微調整や試運転なども農機メーカー担当者より説明が行われた。

農業普及課では、水稲直播栽培による省力化、収量や食味等の調査を通じて、栽培技術の確立と適応性の確認を行う予定である。



【水稲種子コーティング作業】